【百人一首（ひゃくにんいっしゅ）に挑戦（ちょうせん）しよう】

学校（がっこう）が、ずっと休業（きゅうぎょう）になっていて、みなさんが楽（たの）しみにしているクラブ活動（かつどう）もできないので、残念（ざんねん）に思（おも）っている人も多いと思（おも）います。

この休業中に、家（いえ）で、自分だけのクラブ活動というのは、どうでしょうか？百人一首の記事（きじ）を載（の）せるので、参考（さんこう）にしてください。

また、休み中に百首（ひゃくしゅ）を全部（ぜんぶ）覚えるなんてことができたらいいですね。

◆おことわり　「週句コーナー」はしばらくの間、お休みします。俳句は引き続き募集しています。

うたうことのは　百人一首〈特別編〉第2回

文・天野慶

今回の二首は、「歌の神様」と呼ばれた歌人がよんだ歌だよ。声に出してみたくなる歌。みごとな風景が、ありありと目に浮かぶ歌。じっくり味わってみてね。

えぼしくん

柿本人麻呂は持統天皇にかわいがられた「宮廷歌人」なんだ。宮廷歌人ってなにかって？　みんなは旅行に行ったら、写真を撮るよね。昔の人はどうしていたと思う？　「わあ、この景色、きれいだな！」と思ったら、写真の代わりに歌を詠んだんだ。何かイベントがあったときもそう。思い出を歌にしていたんだ。遠足にプロのカメラマンがついてくるように「宮廷歌人」はプロの歌詠み。みんなの代表として感動したことや出来事を、言葉にして残したんだね。

この歌はぜひ声に出して読んでみてほしい。ほら、「の」の音のくり返しがとっても気持ちがいい。

きみのいない夜はさみしくて、山鳥のおすのしっぽくらい長く感じるよ、という妻を思う歌。とにかく長いんだ！　という気持ちがはじめの五・七・五の部分にとってもよく表れているね。山鳥はおすとめすが夜になるとそれぞれ山ひとつはなれて眠ったんだって。それはさみしいね。

あしびきの　山鳥の尾の　しだり尾の　長々し夜を　ひとりかも寝む

柿本人麻呂

山鳥のおすの、長くたれ下がったシッポのようにながーいながーい夜を、ぼくはひとりで寝るのだろうか……。

出典・拾遺集

ひとりで眠る夜は　なんて長くてさみしいんだろう

えぼしくん

本人麻呂とともに「歌の神様」（歌聖）と呼ばれている。平安時代の人たちは、ふたりのように歌が詠めますように、って神様にお祈りしたんだって。

山部赤人は柿本人麻呂とともに「歌の神様」（歌聖）と呼ばれている。平安時代の人たちは、ふたりのように歌が詠めますように、って神様にお祈りしたんだって。

赤人は、身分の低い役人だったみたい。いろんなところへ仕事で旅をして、あちこちで歌を詠んでいる。三首目、歌は写真の代わりだったっていったよね？　赤人は記念写真代わりに、めずらしい景色をたくさん歌にしているんだ。この歌もそう。今の静岡県の駿河湾にある田子の浦に行ったときに詠んだ歌なんだ。

海、それから海岸に生える松の木、そして富士山。ポストカードにしたいくらいの絶景だね。でも、ちょっと待って。「どんどん雪が降っている」って赤人はいうけれど、富士山のてっぺんに降る雪が見えたのかな？

本当は遠すぎて見えないけれど、まさにいま、雪が降っていて、どんどん白くなってゆく富士山を心の目で見ていたんだろうね。さすが歌の神様！

連載をまとめた『エピソードでおぼえる！　百人一首おけいこ帖』（朝日学生新聞社）が発売中です

田子の浦に　うち出でて見れば　白妙の　富士の高嶺に　雪は降りつつ

山部赤人

田子の浦に出て見上げると、富士山のてっぺんに、どんどん白い雪が降っているよ！

出典・新古今集

田子の浦から見る　雪の降る富士山、カッコいい！

イラスト・睦月ムンク

ことばの手引

【田子の浦】今の静岡県・駿河湾のあたり。【白妙の】「純白の」という意味と「富士」にかかる枕詞。【高嶺】山のてっぺん。

【あしびきの】山にかかる枕詞（修飾して、語調をととのえる言葉）。【山鳥】キジ科の鳥。おすは尾が長い。【しだり尾】長くたれ下がっている尾。

あまの・けい　歌人。おもな著作に『枕草子いとめでたし！』、『はじめての百人一首ブック』（幻冬舎）など。小学5年生の子のお母さん。

<5/11　　朝日小学生新聞より>